

学校開放日 校長講話より

(前文省略、途中部分省略)

また、先週は全中スキー大会があり18人の選手が
出場。それぞれの子どもたちが、本当によく頑張っ
てきた。6名が入賞し、全中大会優勝者がなんと3人
も。うれしくもあり誇りにも感じます。フリースタ
イルも含め、スキー部の子どもたち、よく頑張っ
ている。部活といえば、今年1月、吹奏楽部、女子バレ
ーも地区大会を勝ち抜くなど活躍もしています。



私も昔ある運動部の指導をしていたが、今から考えると信じられないほど練習していた。

さて、本題に入ります。

そのときの私は部活に情熱を注いでいるので、部活動を頑張れる子ども、上手になる子どもが、自分にとってのいい子、素晴らしい子どもだったようにも思います。

また、管理職になる前は当然担任をしていたわけで、基本的に私は学力を高めないと気が済まないで、かなりテストのことも気にしたり、居残り勉強もさせました。そのときの私にとっては、勉強を頑張る子ども、勉強ができる子どもが、自分にとってのいい子、素晴らしい子どもだったかもしれない。

今の私は子どもとの関わりの面で言うと、廊下に立って、「おはよう」「さよなら」と挨拶をしています。そんな今の私は、挨拶は人間関係の基本。だから、何よりも挨拶ができる子どもが、いい子で、素晴らしいと、本気で思ったりもします。

でも、考えてみれば、勝手なものです。私の興味関心のありどころによって、同じ子どもがよくもなり、悪くもなってしまうのだから。子どももたまらない。

保護者の皆さんは、私みたいなことはありませんか。

ところで、長野県三行詩コンクール。その中の一つの作品。中野市の小学生(女の子)の作品にこんなものがあった。「妹が心配で休み時間に見に行っているけど、楽しそうに遊んでいる」。何か妹のことで心配することがあるのでしょうか。この子は実は授業中も妹のことを心配しているのかもしれない。廊下を歩いていて、その学校の先生から、「おはよう」と声をかけられても、耳に、声が届かないかもしれない。

子どもたちそれぞれに、何かが心の中にあり、生活している。私たち教師は、あるいは、保護者も、その一つ一つを知ることはできないし、知らない方がいいのかもしれない。

でも、私たち教師は、つい、部活が得意、勉強ができる、挨拶ができると、自分の視点から、いい・わるい、できる・できないとついつい評価の対象として、子どもを見てしまう。そんな悪い癖があったりもする。

昔の記憶なので曖昧ですが、信濃教育会研究所長が書いた文だったと思います。こんなことが書かれていて、私の中に残っている。「教師がいかにも子どもを評価の対象としてみないように在るか。それが教師としての醍醐味で在り重要」。こんなことが書かれていた。

先ほどの三行詩。妹を心配する子を評価の対象としてみれば、授業中にボーっとしていて、挨拶の声は小さく、休み時間に友達ともあまり遊ばないような、教師の都合には合わない子、いい子ではないのかもしれない。

でも、この子は妹を思いやるとても心優しき子でしょう。この子はこの子で、完結しているわけで。私たち大人と同じように不完全で、未熟なところ多々在れど完結している。美しく絶対的な存在で在る。

「光を見てもらえない子どもの星は、光を消す（東井義雄）」

「宇宙が闇だとする／そして人間の心が一つの一つの星として／輝いて見るとする／濁った心は濁って光るとする／さう云う世界を考えたとき／美しい子どもの心と云うものは／一体どれ程の美しい光輝を以って／輝き渡るだろう」（木村素衛）

こう考えたとき、子どもを評価の対象ではなく、ありのまま、まるごと受け止める、受け入れる。子どもを完結した美しい存在として認める。私たちは、そんな存在で在りたいと改めて思いもします。教師も親も、子どもを評価の対象として常に見ているとしたら、子どもはやり切れない。心を開かないばかりか、反発もしたくなる。子どもが逆に、教師をあるいは、自分の親を評価の対象として、冷めた目で見るともなる。いつも足りないところがある、ダメな人として人を評価する、見るようになる。子どもにとって、そこにいてくれるだけで安心できる、ほっとできる存在でいられたらなあと思ったりもする。

星の王子様を書いたサン・テグチュペリ。冒頭の言葉。「おとなは、だれもはじめは、子どもだった。（しかし、そのことを忘れずにいるおとなは、いくらもない）」

子どもが不完全なのと同じように、私たちも不完全。そして、年齢と共に、私たちは知識を含め、たくさんものを手に入れたかもしれないが、子どもの頃持ち得たものをたくさん失っているかもしれない。

子どもの今のため息は、私たちのかつての、あの日のため息。

子どもの今の哀しみは、私たちのかつての、あの日の哀しみ。

いいわるい、できるできないではなく、私たちも子どもだった。あるいはその延長上にいることを忘れず、丸ごとありのままの子どもを受け入れるようにしていきたい。そんな存在でありたいなと最近ふと思ひます。

白馬中の子どもたちを見るに、かつての自分より、どの子もずっと立派だと思ひもします。

2022年度、最後の学校開放日。保護者の皆様には、この一年間、ご心配をおかけした面もあったかと存じますが、温かな気持ちでお支えいただいたことに感謝申し上げます。

保護者の皆様、ありがとうございました。

今後の予定（予定の変更等が生じた場合は、改めて通知いたします。）

今後の予定（予定の変更等が生じた場合は、改めて通知いたします。）	
3月	
3日（金）職員授業研修	13日（月）3年生を送る会
6日（月）完全下校 17:30	15日（水）後期終業式・SDGs表彰式
7日（火）公立後期選抜 学年特別授業	16日（木）卒業証書授与式・離任式
3年下校 12:00	17日（金）学年末休み～31日
8日（水）生徒会・3年特別日課開始	公立後期選抜発表
	29日（水）1, 2年 新年度準備登校